

北部太平洋大中型まき網漁業(波崎地区)プロジェクト もうかる漁業創設支援事業、がんばる漁業復興支援事業実証結果報告

【事業実施者:はさき漁業協同組合】

実証期間:もうかる漁業(平成22年4月1日～平成24年3月31日)、がんばる漁業(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

北部太平洋海区における80トン型大中型まき網漁業において、199トン型改革型網船を導入し、従来の4隻47名体制から3隻41名体制に移行し、生産コストの引き下げを図るとともに、高鮮度製品の増産による販売価格の向上と脱血サバ製品生産による付加価値向上を図り、もって収益性を向上させることを狙いとした実証事業を行った。なお、第3年度は「がんばる漁業復興支援事業」へ移行して操業した。

実証項目

【生産に関する事項】

①操業形態の合理化

②高付加価値化

③労働環境の改善

【流通・販売に関する事項】

漁獲物の鮮度向上

実証結果

【生産に関する事項】

①従来の4隻(網船1隻、探索船1隻、運搬船2隻)47名体制から3隻(網船1隻、運搬船2隻)41名体制に移行し操業を行った。初年度はサバ、イワシを主体に12,213トン、949百万円を水揚げし、改革計画の目標780百万円を大幅に上回り、当該システムで支障なく操業が可能であることを確認した。しかし、平成23年3月11日以降は、東日本大震災と原発事故の影響により十分な操業が行えず、第2年度で8,915トン、621百万円、第3年度で8,627トン、594百万円にとどまった。震災の影響を受けてない初年度の燃油消費量は1,313kl(従前1,567kl)であり、当該システムの導入により生産コストの削減が可能であることを確認した。また、トリプレックス方式の導入によって、操業時の裏漕ぎ作業は探索船兼運搬船の搭載艇で支障なく行えることを確認した。

②脱血装置による船上でのサバの高付加価値製品の開発については、初年度目は装置の試験と調整に終わった。第2年度目は、東日本大震災と原発事故の風評被害等の影響に起因し取り組むに至らなかった。しかし、第3年度目は試験的に500g以上のマサバの脱血サバを製造し、地元流通加工業者を対象に試食会を行い、生臭さがなく、肉食がピンクで、色合いも味も良いとの評価を得、今後の取り組みに期待が持てることを確認した。当該製品の本格的生産にはサバの適応サイズの抽出に2名程度の作業員が必要とされる。

③改革型網船においては、十分な予備浮力により乾舷、復原性及び乗組員の安全、安心を確保し、居室の配置・床面積、トイレ・浴室の数、賄室・食堂の広さが改善され、乗組員の居住・労働環境の改善がなされた。

【流通・販売に関する事項】

①試食会における脱血サバ試作製品の評価は、脱血装置及び殺菌装置による脱血サバ製品の鮮度保持効果の可能性を示唆している。

収支の状況について

上記のとおり、実証項目については一定の成果を得た。収支に関して、震災の影響を受けない初年度目の償却前利益は、改革計画の目標値(1.1億円)を若干下回る0.95億円であった。第2、第3年度は震災と原発事故の影響により十分な操業が行えなかったが、当該操業による収入と原発事故損害賠償金との合計により収支は黒字であった。